

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2017年度5ヶ国目のタイ CIS(カップリングインターンシップ)が、12月15日-12月27日の期間にタイ(バンコク)で開催されました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、カセサート大の人文科学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地では2日間(12月16日-17日)の事前研修をカセサート大で行い、学生主導により、日本企業の理念やコミュニケーションの研修、現地実習企業の紹介、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS実習テーマの検討などを行いました(指導:言語文化研究科の村上教授、佐藤特任助教)。18日から5日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先の OTC ダイヘン・アジア(OTCDA)社(ダイヘンの子会社)で、会社の説明(組織、業務内容)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学(溶接トーチの製造)、工場実習(自動旋盤、射出成形、ロボット操作、溶接)を行いました。12月19日には、ラヨンで OTCDA の FA センターや客先(Thai Summit

PK、自動車部品メーカー)の見学もしました。また、実習テーマの「ものづくりに関する人材育成の課題と対策」について、OTCDAの幹部やスタッフとのインタビューも踏まえて、学生は合宿形式で連日真剣に取り組みました。

最終日の12月25日に、カセサート大で学生はテーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、OTCDAの川原社長、辻井副社長、カセサート大の Peerayuth 工学部長、Nontawat 工学部長アドバイザー、大阪大学の村上教授、佐藤特任助教、菅客員教授ら計21名の参加がありました。ものづくりの中核を担う「現場管理監督者の人材育成」について学生は提案しましたが、企業や大学から貴重なアドバイスが多く出されました。学生は、コミュニケーションや異文化理解の重要性を体得しており、大変意味のある活動でした。

年末の忙しい時期でしたが、OTCDAとカセサート大の献身的な協力により、狙い通りの有意義なCISを実施することが出来ました。

